
私

斉藤 金治郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私

【コード】
N5412BA

【作者名】
斉藤 金治郎

【あらすじ】
僕と同シリーズです。

(前書き)

僕ともう一つのほつです。

私と亮くんに隔たりができたのはいつだろう？それはたぶん3年前。私と亮くんが別々の中学に行つてからだと思う。

3年経つても私は変わらない。私は亮くんはこの気持ちを伝えたい。そもそも私が亮くんと出会つたのは6年前のこと。

私の父は転勤族でたびたび引越しを繰り返していて、そのせいかどちらかというの内気な性格だったと思う。私が3年生の時ここに引越してきた。その時に出会つたのが亮くん。亮くんも私みたいな性格で私は勇気を出して話しかけた。亮くんはやさしく

「こちらこそ、よ、よろしく。僕は亮つて言います」

亮くんが最後に見せたぎこちない笑顔が素敵だった。それから亮くんと私はお互いの家に行くほど仲が良くなった。でもそれも3年前のこと。亮くんと私は別々の中学に行くことになった。最初は安心していた。毎朝会つし、家も隣だから。でも亮くんは部活に入ちやつて、私も塾に行きだして。なかなか合う時間が無くて不安になった。でも私は今も思っている。亮くんは、たぶん知らない。もう私のことなんてどうでもよくなつているのかも知れない。だけど私は亮くんのことでもいい。

亮くん、私は亮くんが好きだよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5412ba/>

私

2012年1月14日22時53分発行